

| | | | |
|--|--|-------------|-------------------------------|
| 授業科目名： 初等教科教育法（社会） | 教員の免許状取得のための 必修科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名： 南 哲朗 担当形態： 単独 |
| 実務内容 （実務家教員の場合） | 小学校教諭として勤務経験をもつ教員が、社会科における指導内容や指導方法について指導する。 | | |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（小学校） | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む） | | |
| 「学位授与の方針」との関係 DP2.共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現、等の専門的知見を得ることができる（専門知） DP4.個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけ実践することができる（実践力） | | | |
| 授業のテーマ及び到達目標 ◎学習指導要領の記載の構成、および教科目標や各学年の内容を理解し、それらの読み取り方を修得する。 ◎社会科学学習指導案の作成の手法、および1時間の授業の組み立て方を習得する。 ◎地域素材の教材化の手法、および社会科授業に求められる知見やスキルを習得する。 | | | |
| 授業の概要 学習指導要領に示された教科目標の記載構成および内容を的確に理解する。また、子供の問題解決的な学びに即した教材や単元づくりに関する知見、および学習指導案作成や板書、発問など授業実践に関する知見やスキルを習得する。それらの学修の過程で情報通信技術の活用のあり方を学ぶ。さらに、「主体的・対話的で深い学び」と社会科における「問題解決的学習」との関連をとらえる。 | | | |
| 授業計画 第1回：オリエンテーション。社会科の特性を概観し、社会科授業に求められる必要かつ基本的な事項を概観する。 第2回：学習指導要領解説（社会編）に示された教科目標の記載構成および各学年の学習内容の配列や系統性をとらえる。また、学習指導要領の趣旨や読み取り方を理解する。 第3回：授業づくりの基本と方法①。社会科における教材および地域素材の教材化の意味とその手法を理解する。 第4回：授業づくりの基本と方法②。社会科における単元構成および単元づくりの意味や基本的な手法をとらえる。 第5回：授業づくりの基本と方法③。1時間の授業の基本的な流れや展開、組み立て方について理解する。 第6回：授業づくりの基本と方法④。地域にある社会的事象を学習指導要領に即して選定する際の判断、教材化の手法、などを理解する。 第7回：授業事例に即しながら、教科書や副教材の活用のあり方、自作資料の作成方法、情報機器等の活用のあり方、などを理解する。 第8回：授業事例に即しながら、1時間の本時案作成における学習内容、学習活動、教師の支援、資料提示や評価のタイミング、などに求められるスキルや配慮事項を理解する。 第9回：授業事例に即しながら、社会科授業実践で求められる発話、板書、評価などの具体的なスキルについて理解する。 第10回：カリキュラムマネジメントの趣旨や具体的な手法について、社会科におけるPDCAサイクルを中心に理解する。 第11回：「主体的・対話的で深い学び」と社会科における「問題解決的学習」との関連をとらえる。また、アクティブラーニングの本来の趣旨を理解する。 第12回：地域素材の教材化、単元構想、1時間の指導案作成、資料作成、授業実践など様々な場面で求められる情報通信技術の活用のあり方を学ぶ。 第13回：地域教材を取り上げて作成した指導案を発表し、相互の振り返りと討論を通してアクティブに学び合う①。 第14回：地域教材を取り上げて作成した指導案を発表し、相互の振り返りと討論を通してアクティブに学び合う②。 第15回：地域教材を取り上げて作成した指導案を発表し、相互の振り返りと討論を通してアクティブに学び合う③。 定期試験 科目修得試験（R試験）を実施する。 | | | |
| スクーリングでの学修 基本的には双方のスクーリングで第1回～15回までを扱うが、オンデマンドでは主に第1回～第6回までの内容を包括的に扱い、webライブでは主に第7回～15回までの内容を包括的に扱う。 | | | |
| テキスト 文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編』 | | | |
| 参考書・参考資料等 https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387017_003.pdf | | | |
| 学生に対する評価 スクーリング評価（25%）、レポート評価（25%）、科目修得試験（50%） | | | |